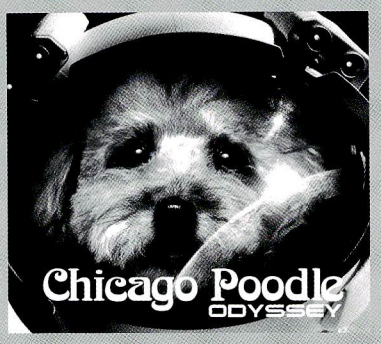


ODYSSEY／Chicago Poodle
GZCA-7139　1050 円

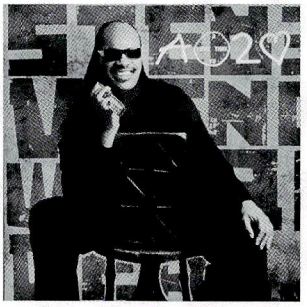
タイトルは意気込みかというと、意外とそうでもなく、インディーズで 9 枚もリリースしているキャリアの集大成と考えた方が良いだろう。とは言え、ピアノ・ベース・ドラムの 3 ピースにギターソロもストリングアレンジもあり、複雑だが確実に耳に残るメロディラインは乾坤一擲な力作と言える。敢えて一言で特徴を言えば、「ムッツリ爽やか」

取材・文／竹中　聡　撮影／林川　淳　取材協力／KYOTO MUSE

Chicago Poodle
シカゴ　プードル

大阪出身の花沢耕太（Vo./Piano・タイガースファン／写真右）と、京都出身の山口教仁（Dr.・「タモリ倶楽部」空耳アワーの手ぬぐい獲得者／写真中）と辻本健司（Ba・ドラえもんがアイデンティティ／写真左）が同志社大学で結成した 3 ピースバンド。音づくりは緻密で、基本的に優等生的な真面目な性格。全国で評価が高い理由はそこにあるのかも
http://www.chicagopoodle.jp/

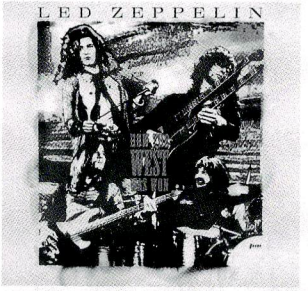
PPS
POWER PLAY SOUND
Music is moistened our life.Tasteful album is here.
W'd like to find your recomended one.



recomend 01

A TIME TO LOVE
／STEVIE WONDER
ユニバーサルミュージック　2548 円

スティービー育ちなのは花沢。「怖いモノ知らずな感じというか、無邪気に音楽をつくってるのに憧れる」。Aメロ→Bメロ→サビ～に収まってる自分を戒める存在でもある。曰く、「振り返ればスティービーがいる」



recomend 02

HOW THE WEST WAS WON
／Led Zeppelin
ワーナーミュージック・ジャパン　4410 円

「聴く音楽とやる音楽が違うタイプなんで」という山口のリコメンド。中学時代にはあまりピンと来なかったツェッペリンが、耳が肥えた今は「病んだときに聴く、ポカリスエットとか、清涼剤みたいな重要な存在」だという

recomend 03

IMAGE ／ LUNA SEA
MCA ビクター

「ちゃんとした会社のサラリーマンになりたかったから、このアルバムに出会ってなかったら…」という辻本の思い出の 1 枚。音楽事始めがビジュアル系だったとは、最近のシカゴファンには衝撃の真実か

名人芸のように、リフレインするメロディ 爽やかさに隠れた底力はダテじゃない

歌詞が素晴らしい。ケレン味が無くはないが、イヤらしくない、よく考えられた歌詞だ。ところが、絶対的なメロディがあるからあまり目立たない、ある意味、贅沢である。

さて、それを誰がつくっているのか？ 時は '03年、記念すべき第一回目の「京都学生祭典」勝ち抜きバンド合戦、二次オーディション（実技）での出来事。「落ちた…」とメンバーが心の中で口を揃えているところ、一人だけ「獲ったな」と確信したのが花沢だった。「演奏技術ウンヌンじゃなくて、メロディで考えたら負けた気がしなかった〈花沢〉」。「祭がどうとかより、優勝賞金 100 万円に見事に食いついた（笑）〈辻本〉」のがエントリーの理由だった割には見事に優勝を果たした。即、現在のレーベルに所属、以来 5 年間はインディーズ暮らしだった。担当者曰く「ステージングが悪かったし、全国のインストアライブに回って、基礎体力をつけさせた」。その間、いくつかの危機も迎えたが、MC が苦手で「曲間恐怖症」だったという花沢も、今はよく回る舌でこう語る。「FM 地方各局を回ってパワープレイに選んでもらって、自分たちの音が日本のサイズで語られるのは大きかったし、ライブハウスでも皆さんが本当に親身に相談にのってくれて、『君たちは音楽をやりなさい』って言われているような気がした」。メジャーに打って出る意味も不透明な時代に、そういう思いを身体に蓄積したバンドは強い。

辻本は言う。「同志社や立命には音楽サークルが多い。みんな厳しい受験戦争中は音楽を我慢して、大学に入ったら思いっきり音楽をやろう！という気風がある」。その初志のようなものは、今もモチベーションやポテンシャルとしてあるだろう。

山口はこう言う。「王道漫才みたいな存在がいい。阪巨師匠（オール阪神巨人をこう呼ぶ。ツウである）みたいな」。さしずめ良くできた歌詞はネタ、抑揚を生みつつ、よどみなく流れるメロディはテンポや間の良さということか。それはタイアップに頼らない、ぽっと出ではないという自負でもあるだろう。

なるほど。昨日のネタに思い出し笑いをするように、翌朝、頭の中でこの曲がリフレインしているのは、その実力の証左だったか。